

大隅の魚でつくる自慢の漁師飯が集結 坂下水産がグランプリを受賞

11月23日に鹿屋市霧島ヶ丘公園で第5回おおすみ漁師飯グランプリが開催され、大隅地域から各漁協とコラボした10団体が自慢の海鮮丼でエントリーしました。錦江町からは「おおすみ岬漁協×坂下水産」でヒラマサ丼を販売。1,000円2食付のチケットで投票を競う形式で、ヒラマサ丼が最多投票を獲得し、見事第5回大会のグランプリに輝きました。



グランプリに輝いた「錦江町のひらまさどん!!」は1月からふる里館で販売が決定しました。(米は酢飯になります)

大根占小の読み聞かせグループ 県優良読書グループ表彰受賞

11月13日に開催された県図書館大会で、「錦江読み聞かせグループきらきら」が優良読書グループ表彰を受賞しました。子どもたちに本の魅力を伝えたいと平成21年から始まったこの活動は、今年で10年という節目の年。月1回16名の会員が交代で行っている読み聞かせに子どもたちは目を輝かせて聞き入り、本の世界に入り込んでいました。



子どもたちの笑顔を楽しみに本を選んでいると話すきらきらのメンバー。本を好きになるきっかけ作りを目指す。

災害をイメージし「もしも」に備える 鳥浜自治会で津波想定した訓練

地震による津波を想定した避難訓練が11月17日に鳥浜自治会で、19日に錦江園で行われ、自治会や入所者、消防団、警察など305名が参加しました。震度6弱の地震が発生、4.5mの津波が到達することを想定した訓練。鳥浜自治会の参加者120名は、約400m離れた高台に避難し、逃げ遅れがないか点呼を取るなど「もしも」の災害に備えて防災意識を高めました。



消防団は避難の呼びかけや誘導を行うなどそれぞれの役割を再確認。消防、警察署員による講和や消防団の防災クイズも実施した。

ラグビーW杯で人気沸騰中 宿利原小でタグラグビー

元U20日本代表選手の浅井斗頼さん(町教委)が11月12日、宿利原小でラグビー教室を開催しました。W杯開催で人気が高まり、普段経験することの少ないラグビー競技に触れてもらおうと企画。腰に付けたタグを取ることでタックルに変える安全なタグラグビーを全児童10名が体験し、慣れないルールを覚えながら憧れのトライを決めました。



W杯のトライシーンが印象的だった子どもたちは、相手ディフェンスをかわしながら大声で「トライ」を決めました。

町内6小学校122名が地域の未来を描く まちづくりワークショップ開催

10月から11月にかけて町内6小学校でワクワクまちづくりワークショップを開催。町の最上位計画である「総合振興計画」の見直しに向けた取り組みで、グループごとに地域の20年後の理想を書き出してお互いに発表しました。「自然を守りたい」「観光客がたくさん来る場所にしたい」など地域の宝をそれぞれが再認識しながら未来を描きました。



令和元年度 鹿児島県茶品評会 深蒸し茶部門で2年連続産地賞

県内で生産された一番茶の品質を競う茶品評会で、錦江町が深蒸し茶部門で2年連続となる産地賞を受賞しました。11月20日に志布志市で行われた県茶業振興大会で表彰式があり、産地全体の品質の高さや、安定した生産力などが高く評価。鳥越逸郎茶業振興会長は「2年連続の産地賞は生産者の誇り。さらなる高みを目指したい」と決意を強めました。



左から鳥越逸郎会長、町長、鹿児島きもつき農協代表理事組合長

大原地区 子どもの成長と秋の恵みに感謝 地域一体で盛り上げた祭り

11月17日、大原オータムフェスティバルが大原小学校で開催されました。平成14年から秋の収穫祭と学習発表会を同日開催するようになり、今では学校行事の枠を超えて地域の祭りとして盛り上がりを見せています。舞台では学習成果を発表、校庭では金銭教育の一環で餅などの販売に長い列ができ、並べると同時に完売する盛況ぶりでした。



自分たちで育てたもち米を使った餅つき大会。最後の餅つきとなった6年の石田紬さん親子に会場からは大きな声援が送られました。

火災の発生しやすい季節に園児が啓発 火災予防を呼びかけパレード

11月13日に田代幼年消防クラブが、14日に法輪保育園幼年消防クラブがそれぞれ防火パレードを行い、火災の発生しやすい時期を前に注意を呼びかけました。田代地区では、石走真愛ちゃんと古本叶羽くんを先頭に41名の園児がパレードに参加。火の用心の横断幕を手に、拍子木を打ち鳴らしながら大きなかけ声で沿道の住民に火災予防を訴えました。

